

# 委員会報告

2017～2018年度

No.1

第 10 回

委員会名 CEP・指導力育成委員会

委員長名 L 柳 井 健 一

開催日時	2018年 4月 9日 月曜日 16時 00分 ～ 17時 30分					
開催場所						
出席者	細川地区ガバナー		今井第1副地区ガバナー		伊賀第2副地区ガバナー	
	○ L 柳井健一 委員長		L 西野 実 副委員長		L 石渡幸雄 副委員長	
	○ L 西山和範 副委員長	○	L 小野隆子 副委員長	○	L 加藤朝美 副委員長	
	○ L 佐野経明 委員		L 川村宜禎 委員	○	L 高橋のり子 委員	
	L 青木正孝 委員		L 飯田 豊 委員	○	L 高橋幸栄 委員	
	L 野崎 進 委員	○	L 村上万里 委員			
	○ L 脇村孝友 SPA		L 中村和男 SPA			
	○ GLT L 佐久間洋一		GST L 進藤義夫			
		出席オブザーバー				
	○	L高橋昌幸 統括副幹事		L江野上孝一 担当副幹事		
次 第	司会・進行 L西山和範					
	1	開会挨拶 副委員長 L小野隆子				
	2	委員長挨拶 委員長 L柳井健一				
	3	議事録作成者選任 委員 L村上万里				
	4	第9回委員会議事録の発表 副委員長 L小野隆子				
	5	審議				
	6	閉会挨拶 L脇村孝友アドバイザー				
議 題	審議経過事項の概要					
		次第1～4まで、次第通り				
	5	第10回審議・協議事項 ※詳細別紙				
		①第64回年次大会における分科会シンポジウムについて				
		テーマ1-1 有効な指導力育成セミナーについて…開催済み分、概ね高評価。CQIは後述				
		テーマ1-2 メンバー交流について…青アカ 杉村委員長に一任				
		テーマ2 ゾーンチェアパーソンの要件について…経緯、手法、内容、議論百出 抄録別紙				
		②CQIセミナーについて				
		4月20日(金) 受付(16:30開始)手伝い後、セミナー受講の方向 集合16:00 抄録別紙				
	6	閉会挨拶 L脇村孝友アドバイザー				
次回開催日時 場所	2017年 5月 14日 月曜日 15時 45分 ～ 17時 30分					
	キャビネット事務局 大会議室					
	作成者			L 村上万里		

議 題	審議経過事項の概要
	①第64回年次大会における分科会シンポジウムについて
	テーマ1-1 有効な指導力育成セミナーについて
	①2017年10月25日(14:00~17:00) 次世代リーダーシップセミナー 参加者56名
	※良い内容のセミナーができたと自負
	②2017年11月29日(13:00~17:00) 公認ガイディングライオン研修会 参加者約60名
	※資格有効期間3年とのことで失効者あて出席依頼による受講者募集で及第点
	③2018年4月20日(17:00~19:30) クラブ活性化(CQI)セミナー開催予定
	※申込者少なく、各位に出席者誘致の要請。来期副幹事団にも全員受講要請。
	◆上記内容を受け、セミナーのあり方、内容、頻度について問題ありの指摘あり。国際協会の「50万人に学習の機会を」を受け、完全履行を目論むと、330Aでは1600人への機会提供が必要。セミナーのみでの達成は不可能(月2~3回の実施要)。受講者対策も困難。
	テキスト配布等、別途の対策不可欠。リジョンごとのpptによるオリエンテーション、資料作りが有効か? 国際協会サイト内の資料はサマリーでも膨大。要工夫。しかし、当委員会の仕事か疑問。メンバーの質の向上、退会防止策としての位置づけ、活性化へつながるか?
	⇒理想と現実、観念論と現実論の大きな離れ。類似内容、積極的出席者極少のうえ、同一出席者ばかり等、問題山積。単一クラブでの活動に資しているか、少しでも役に立っているか疑問。べき論語っても、人集めに奔走する運営全体の形骸化は問題。
	テーマ2 ゾーンチェアパーソンの要件について
	ガバナーチームより加筆改訂版「ゾーンチェアパーソンの要件について」が配布されたことにつき、委員長より経緯の説明とともに、批判、抗議を行ったことを報告。
	昨年度年次大会での決定に基づいた細川ガバナー諮問事項に対し、当委でまとめたZCマニュアルを公開したにもかかわらず、加筆改訂した行為は、ガバナーチームと年次大会の組織的位置づけからして根本的誤り。(ただし、加筆しただけとの弁明もあり。)
	ZCの資質につき、こまごまとした条件づけは「言い訳」材料となるだけ。質の向上は望むが、本来は、グッドスタンディングであること、諮問事項の正確な伝達役で十分。
	ZCは若歴ライオンへのリーダーシップ、退会防止の防波堤としても重要との見解。
	本委員会の活動自体の否定につながるもの。本来なら、本委に要再検討の指示あるべき。
	ガバナーチームへの不満、不信感はぬぐえず、終了。
	等々、議論内容を勘案した抄録としたい。(文責 L村上万里)